

第4回総合体育館基本構想検討委員会

日時：令和3年9月13日(月)

午後2時～

場所：市町村自治会館403号室（Web開催）

会 次 第

1 開 会

2 議 事

(1) 施設の機能，規模・構成（コンセプト）について

① 「みる」スポーツ，「ささえる」スポーツに必要な機能について・・・資料1

② 規模（諸室）について・・・資料2

③ 新たな総合体育館のコンセプトについて・・・資料3

(2) 施設のコンセプトを踏まえた立地環境について・・・資料4

(3) その他

3 閉 会

「みる」スポーツ, 「ささえる」スポーツに必要な機能について (各委員の意見聴取結果)

1 「みる」スポーツに必要な機能

○全国・国際大会の誘致を見据え, 他県にない優位性の確保

- ・観客の視点からの立地, 座席, 最先端の映像・音響設備, トイレ, エントランス, 飲食, 土産, 施設内の外国語表記, Wi-Fi環境の整備など
- ・選手の視点からの関係者動線, 更衣室の質の確保など
- ・大会運営者の視点からの立地, 搬入搬出, 関係者諸室, テレビブース, 回線, 飲食, 関係者接遇空間の整備など
- ・障害者に配慮した観客席の整備 (サイトラインの確保, 複数の観覧スペースの確保), 車椅子が乗り降りしやすいエレベーターの設置など

2 「ささえる」スポーツに必要な機能

○市町村では対応が難しい機能の整備

- ・R&Dの拠点として, 鹿屋体大と連携したスポーツ科学の研究・提供機能 (鹿屋体大のサテライト的な機能, 生理学, バイオメカニクス, トレーニング, 栄養に関する情報提供など) の検討
- 「高校・大学連携機能」として, 大会のない期間に, 研究や実習の場としての活用
- ・スポーツ関係者の交流・ネットワーク拠点機能 (大会期間外も含めたスポーツ関係者の総合支援拠点)

- ・スポーツ指導者（例：部活動指導員，障害者スポーツ指導者）の養成拠点機能
- ・スポーツ情報発信機能（スポーツ博物館，ライブラリー機能）
- ・気軽にスポーツ体験ができる機能（体力測定室，トレーニング室，ランニングコース）
- ・若者がスポーツに関心を持てる仕組みづくり（例：ニュースポーツ）
- ・スポーツ合宿にも対応できる施設

3 その他

○施設の財政的な持続可能性にも寄与する機能の担保

- ・健康増進（ヘルス）サービス機能（ウェルネス情報発信等）
- ・本県の食・水・温泉等の展示・体験ができる機能

○その他

- ・想定される災害にも対応できる施設
- ・ユニバーサルデザインにも配慮した施設（車椅子利用者用のスロープの設置など）
- ・競技者以外でも気軽に来場できる仕組みづくり（ファミリーシートを設置など）

規模（諸室）について

1 趣旨

新たな総合体育館に必要な更衣室，運営本部室など諸室の構成や規模について，検討委員会における客観的，科学的な検討に資するため，アリーナ標準や各種大会等における基準及び類似施設の状況を調査し，諸室ごとの必要規模と，これを積み上げた諸室全体の理論値を整理

2 必要規模の考え方

- アリーナ標準※に基づき，諸室の構成及びその規模を整理
（ミニマムの構成・規模として仮置き）

※ 屋内スポーツ競技団体や管理運営などに関わる企業等が「する」スポーツに加え「みる」スポーツとしてのアリーナスポーツ環境の整備を推進することを目的として取りまとめ（平成28年9月改訂版）

- 同標準に位置付けられた諸室のうち，規模が示されていないものは
 - ① 国際大会，全国大会，プロリーグの規定に示された規模を仮置き
 - ② ①にも規模が示されていない諸室は，類似施設のうち同程度の施設の規模を仮置き
- 柔剣道場及び弓道場については，諸室の基準等が定められていないため，類似施設のうち同程度の施設の構成・規模を仮置き（ミニマムの構成・規模と位置付け）
- 器具庫については，屋内スポーツ競技団体に保管が必要な器具等を調査の上，その収納に必要な面積を器具メーカーに確認して整理

[上記整理に使用した基準等]

メインアリーナ・サブアリーナ		
基準	共通	アリーナ標準
	国際大会	国際バレーボール連盟 試合会場規定
	全国大会	高校総体基準（バレーボール競技）
	プロリーグ	Vリーグ機構規約 ライセンス交付規則
類似施設※	群馬総合スポーツセンター	メイン4面（最大収容人数 9,000人），サブ2面
	栃木県総合運動公園体育館	メイン4面（最大収容人数 6,700人），サブ2面
	福岡市総合体育館	メイン3面（最大収容人数 7,600人），サブ2面
	SAGAアリーナ	メイン3面（最大収容人数 9,700人），サブ2面
	参考：新総合体体育館	メイン4面（最大収容人数 8,000人），サブ2面

※類似施設：バスケットボールコート競技面数及びメインアリーナの最大収容人数

武道場（柔剣道場）		
類似施設	由利本荘市防災公園アリーナ	柔剣道場 4 面
	太宰府市総合体育館	柔剣道場 4 面
	福岡市総合体育館	柔剣道場 4 面
	参考：新総合体体育館	柔剣道場 4 面

弓道場（近的場）		
類似施設	群馬総合スポーツセンター	近的12人立
	酒田市国体記念体育館	近的10人立
	福岡市総合体育館	近的10人立
	平塚総合体育館	近的 9 人立
	参考：新総合体体育館	近的12人立

弓道場（遠的場）		
類似施設	群馬総合スポーツセンター	遠的 6 人立
	酒田市国体記念体育館	遠的 6 人立
	久留米スポーツセンター	遠的12人立
	山形市総合スポーツセンター	遠的12人立
	参考：新総合体体育館	遠的 6 人立

3 とりまとめ結果

メインアリーナ・サブアリーナ，柔剣道場，弓道場における必要な諸室面積は以下のとおり（詳細は別添資料参照）

《メインアリーナ・サブアリーナ》

（単位：㎡）

諸室	用途等	必要面積
器具庫	器具庫（メイン・サブ）	1,120
更衣室	更衣室，監督室，審判更衣室等	686
会議室	運営本部室，記者室，記者会見室等	572
VIP室	VVIP・VIPラウンジ	158
事務室等	事務室，その他管理諸室，設備室等	551
放送記録室	放送・記録室	18
医務室	医務室・救護室	50
サービス	売店	30
その他	トレーニング室，多目的室	2,170
合計		5,355

《 柔剣道場 》

(単位：m²)

諸室	用途等	必要面積
更衣室	更衣室	58
その他諸室	器具庫, 控室等	117
合計		175

《 弓道場（近的） 》

(単位：m²)

諸室	用途等	必要面積
更衣室	更衣室	100
その他諸室	器具庫, 控室等	210
合計		310

《 弓道場（遠的） 》

(単位：m²)

諸室	用途等	必要面積
更衣室	更衣室	59
その他諸室	器具庫, 控室等	126
合計		185

- 大会等の利用目的によって諸室の用途や利用範囲が異なることから、類似施設においては可動間仕切りの設置などによるフレキシビリティな多目的室を設置し、運営本部室や記者室等として効率的に利用している例がみられる。

このため、本県においても、整備予定地の決定後、施設のレイアウトや動線を検討する中で、観客席の規模・配置などと合わせて、より効率的な配置の視点から協議していただくことを想定。

メインアリーナ・サブアリーナ その他諸室の必要規模（廊下、階段、トイレ等は含まない）

諸室	区分	基準等								類似施設等								必要規模		
		共通		国際大会		全国大会		プロリーグ		ぐんま総合スポーツセンター		栃木県総合運動公園体育館		福岡市総合体育館		SAGAアリーナ		新たな総合体育館		
		アリーナ標準		国際バレーボール連盟 試合会場規定		高校総体基準 バレーボール		Vリーグ機構規約 ライセンス交付規則		メイン4面, サブ2面 9000人(固定3225席,可動2208席)		メイン4面, サブ2面 6700人(固定3094席,可動1992席)		メイン3面, サブ2面 7600人(固定3218席,可動1824席)		メイン3面, サブ2面 9700人(固定6538席,可動2128席)		メイン4面, サブ2面 8000人以上(固定4300席,可動席2000人)		
		用途※1	面積	用途	面積	以下の一部が必要	以下の一部が必要※2	用途	面積	用途	面積	用途	面積	用途	面積	諸室	用途	面積		
器具庫	運営	◎倉庫・予備室						器具庫(メイン棟)	492	器具庫(メイン)	1,340	器具庫(メイン)	807	器具庫(メイン)	554	器具庫	器具庫(メイン)	770		
								器具庫(サブ棟)	107	器具庫(サブ)	393	器具庫(サブ)	243	器具庫(サブ)	230		器具庫(サブ)	350		
										移動席収納庫	146			床パネル庫	218					
		小計	0	小計	0	小計	0	小計	599	小計	1,879	小計	1,050	小計	1,002		小計	1,120		
更衣室	選手	◎チーム更衣室(4室×100㎡)	400					選手更衣室	—	更衣室(メイン棟)	279	ロッカールーム	115	選手控室	446	控室	690	更衣室(メイン)	400	
	選手			更衣室(4室×30㎡)	120			更衣室(サブ棟)	144	アリーナ用更衣室	216	一般更衣室	641	更衣室	84			更衣室(サブ)	120	
	選手							選手控室	66			多目的更衣室	18					多目的更衣室	18	
	運営	◎監督室(2室×24㎡)	48					特別室・役員室	136	監督室	41	役員室	88					監督室	48	
	運営	◎審判更衣室(2室×30㎡)	60	審判更衣室(2室×20㎡)	40	審判	—	派遣審判控室	—	審判用控室	77	審判室	30					審判更衣室	60	
	運営	○モッパ-更衣室他	—	ホ-ル用モッパ-&モッパ-(2室×20㎡)	40			チアリーダー控室	—									モッパ-更衣室他	40	
			小計	508	小計	200	小計	0	小計	625	小計	449	小計	1,223	小計	774		小計	686	
会議室	運営	◎運営本部室	200			総務	—	運営本部	—	研修・会議室	444	大会議室	301	研修・会議室	150	多目的室(小)	727	運営本部室	200	
	運営	○コミッショナールーム	24	テクニカルビュー-ロ-&セクタリアット	50	競技	—	JVIMS控室	—	ミーティングルーム	98							コミッショナールーム	24	
	運営	◎ド-ビングコントロール室	—	ド-ビングコントロール室	50			ド-ビングコントロール室	—	検査室	216	ド-ビングコントロール室	24					ド-ビングコントロール室	50	
	運営	○予備室	—	VISルーム	24	競技補助役員	—	テレビ中継スタッフ控室	—	講師控室	57			予備室	67			予備室	48	
	報道			FIVBプレスステレグイト執務室	24															
	報道	◎記者室	150	記者室(プレスルーム)	30			プレスワ-キングルーム	—	記者室	30	メディア用諸室	34					記者室	150	
	報道	◎記者会見室	100	記者会見室	30			インタビュールーム	—	映像操作室	31	プロドキャスト-用諸室	29					記者会見室	100	
	報道	◎ミックスゾーン	—					囲み取材エリア	—									ミックスゾーン※3	—	
	報道	◎記者席	80席										テレビカメラエリア	46				記者席※3	—	
	報道	◎カメラマン室	—															カメラマン室※4	—	
	報道	◎中継用実況放送室	—															中継用実況放送室※3	—	
			小計	474	小計	208	小計	0	小計	876	小計	434	小計	217	小計	765		小計	572	
VIP室	VIP	◎VVIP室(席)	—	特別席(ロイヤルボックス)	10席													VVIP室(席)※3	—	
	VIP	○VVIPラウンジ	—	FIVA会長応接室	40													VVIPラウンジ	40	
	VIP	◎VIP室(席)	80席	VIP招待席	50席													VIP室(席)※3	—	
	VIP	○VIPラウンジ	—	VIPラウンジ	50	来賓		来賓様諸室	—			VIP室	63					VIP室	174	
	VIP			コントロールコミッティ執務室	24			開催地役員控室	—											
	VIP			審判用ラウンジ	24															
	報道			プレスラウンジ	20															
		小計	0	小計	158	小計	0	小計	0	小計	63	小計	0	小計	653		小計	158		
事務室等	事務	◎警備本部室	—					事務室	273	事務室	203	事務室	147	事務室	131	事務室等	事務室	273		
	事務	◎警備控室・警察・消防控室	—			警察・消防司令室	—	その他管理諸室	278	その他管理諸室	77	その他管理諸室	67	その他管理諸室	43		その他管理諸室	278		
								設備室等	1,436	設備室等	998	設備室等	1,076	設備室等	1,460		設備室等	1,436		
		小計	0	小計	0	小計	0	小計	1,987	小計	1,679	小計	1,290	小計	1,634		小計	1,987		
放送記録室	運営	◎放送・記録室	18			記録室	—	放送室	50	放送・記録室	31	放送室	34	放送室	75	放送記録室	放送・記録室	18		
		小計	18	小計	0	小計	0	小計	50	小計	31	小計	34	小計	75		小計	18		
医務室	運営	◎医務室	50	メディカルルーム	25			医務室	—	医務室	66	医務室	23	医務室	23	医務室	医務室・救護室	50		
	運営	◎救護室	—			救護室	—	救護室	—											
		小計	50	小計	25	小計	0	小計	66	小計	23	小計	24	小計	23		小計	50		
サービス	観客	◎飲食売店	—									売店・ショップ	71	ショップ	30	サービス	売店	30		
	観客	◎グッズ売店	—									チケット売場	14				飲食スペース(選手・観客)※3	—		
		小計	0	小計	0	小計	0	小計	16	小計	85	小計	30	小計	68		小計	30		
その他								トレーニング室	147	トレーニング室	410	トレーニング室	743			その他	トレーニング室	385		
								体力測定室	85											
								休憩ラウンジ	153											
								多目的室	219	多目的スタジオ	376	多目的室(大)	722	フリススペース(大)	222			多目的室※4	219	
								プレイルーム	130	幼児体育室	59	キッズルーム	107				キッズルーム	130		
								小計	734	小計	845	小計	1,572	小計	222		小計	734		
合計									4,951		5,488		5,441		5,215	合計	5,355			

※1 ◎は原則的に必ず設置する事項/○は設置すべき事項

※2 使用する人数に応じた規模の諸室またはスペースを用意できること。ただし、広さおよび機能条件を十分に満たし、共用できる場合はこれを認める。また、医務室、救護室、ド-ビングコントロール室については仮設対応を可とする。

※3 廊下の一画や観客席に整備するため「—」と表示 ※4 カメラマン室は多目的室を使用

メインアリーナ・サブアリーナ その他諸室の利用範囲（廊下、階段、トイレ等は含まない）

諸室	区分	必要面積		利用範囲					
		新たな総合体育館		プロリーグ		全国大会		県大会	
		メイン4面、サブ2面 武道場、弓道場							
		用途	面積	用途	面積	用途	面積	用途	面積
器具庫	運営	器具庫(メイン)	770	器具庫(メイン)	770	器具庫(メイン)	770	器具庫(メイン)	770
	運営	器具庫(サブ)	350	器具庫(サブ)	350	器具庫(サブ)	350	器具庫(サブ)	350
		小計	1,120	小計	1,120	小計	1,120	小計	1,120
更衣室	選手	更衣室(メイン)	400	更衣室(メイン)	400	更衣室(メイン)	400	更衣室(メイン)	400
	選手	更衣室(サブ)	120	更衣室(サブ)	120	更衣室(サブ)	120	更衣室(サブ)	120
	選手	多目的更衣室	18	多目的更衣室	18	多目的更衣室	18	多目的更衣室	18
	運営	監督室	48	監督室	48				
	運営	審判更衣室	60	審判更衣室	60	審判更衣室	60	審判更衣室	60
	運営	モップ-更衣室他	40	モップ-更衣室他	40	モップ-更衣室他	40		
		小計	686	小計	686	小計	638	小計	598
会議室	運営	運営本部室	200	運営本部室	200	運営本部室	200	運営本部室	200
	運営	コミッショナールーム	24	コミッショナールーム	24	コミッショナールーム	24		
	運営	ド-ピングコントロール室	50	ド-ピングコントロール室	50	ド-ピングコントロール室	50		
	運営	予備室	48	予備室	48	予備室	48	予備室	48
	報道	記者室	150	記者室	150	記者室	150		
	報道	記者会見室	100	記者会見室	100	記者会見室	100		
	報道	ミックスゾーン※3	—	ミックスゾーン※3	—	ミックスゾーン※3	—		
	報道	記者席※3	—	記者席※3	—	記者席※3	—		
	報道	カメラマン室※4	—	カメラマン室※4	—	カメラマン室※4	—		
	報道	中継用実況放送室※3	—	中継用実況放送室※3	—	中継用実況放送室※3	—		
	小計	572	小計	572	小計	572	小計	248	
VIP室	VIP	VVIP室(席)※3	—	VVIP室(席)※3	—	VVIP室(席)※3	—		
	VIP	VVIPラウンジ	40	VVIPラウンジ	40	VVIPラウンジ	40		
	VIP	VIP室(席)※3	—	VIP室(席)※3	—	VIP室(席)※3	—		
	VIP	VIPラウンジ	118	VIPラウンジ	118	VIPラウンジ	118		
		小計	158	小計	158	小計	158	小計	
事務室等	事務	事務室	273	事務室	273	事務室	273	事務室	273
	事務	その他管理諸室	278	その他管理諸室	278	その他管理諸室	278	その他管理諸室	278
	事務	設備室等	1,436	設備室等	1,436	設備室等	1,436	設備室等	1,436
	小計	1,987	小計	1,987	小計	1,987	小計	1,987	
放送記録室	運営	放送・記録室	18	放送・記録室	18	放送・記録室	18	放送・記録室	18
		小計	18	小計	18	小計	18	小計	18
医務室	運営	医務室・救護室	50	医務室・救護室	50	医務室・救護室	50	医務室・救護室	50
		小計	50	小計	50	小計	50	小計	50
サービス	観客	売店	30	売店	30	売店	30	売店	30
		飲食スペース(選手・観客)※3	—	飲食スペース(選手・観客)	—	飲食スペース(選手・観客)	—	飲食スペース(選手・観客)	—
		小計	30	小計	30	小計	30	小計	30
その他		トレーニング室	385						
		多目的室※4	219	多目的室※4	219	多目的室※4	219	多目的室※4	219
		キッズルーム	130	キッズルーム	130	キッズルーム	130		
		小計	734	小計	349	小計	349	小計	219
合計		合計	5,355		4,970		4,922		4,270

※3 廊下の一面や観客席に整備するため「—」と表示

※4 カメラマン室は多目的室を使用

器具庫の必要規模

競技種目	競技面数				器具等				必要面積 (㎡)			
	メイン	サブ	柔剣道場	弓道場	メイン	サブ	柔剣道場	弓道場	メイン	サブ	柔剣道場	弓道場
1 バレーボール	4	2	—	—	ネット4枚 ボール8本 審判台4台 得点板4台	ネット2枚 ボール4本 審判台2台 得点板2台	—	—	60	30	—	—
2 バスケットボール	4	2	—	—	ゴール8基 得点板4台 タイマー4台	ゴール4基 得点板2台 タイマー2台	—	—	120	60	—	—
3 ハンドボール	3	1	—	—	ゴール6基 得点板3台 タイマー3台	ゴール2基 得点板1台 タイマー1台	—	—	30	10	—	—
4 バドミントン	25	12	—	—	ネット25枚 ボール50本 審判台25台 得点板25台 卓球台60台	ネット12枚 ボール24本 審判台12台 得点板12台 卓球台24台	—	—	60	30	—	—
5 卓球	60	24	—	—	ネット60枚 審判台60台 得点板60台	ネット24枚 審判台24台 得点板24台	—	—	100	50	—	—
6 体操	1	1	—	—	全10種目 1式	—	—	—	400	—	—	—
7 柔道	8	6	4	—	—	畳8面分	畳4面分	—	—	80	40	—
8 剣道	8	6	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9 弓道	—	—	—	18	—	—	—	18的分	—	—	—	20
10 空手	—	6	—	—	—	マット 6面分	—	—	—	20	—	—
11 ボクシング	—	1	—	—	—	リング 1式	—	—	—	20	—	—
12 レスリング	—	3	—	—	—	マット 3面分	—	—	—	30	—	—
13 ウェイトリフティング	—	6	—	—	—	プラットフォーム 6面分	—	—	—	10	—	—
14 銃剣道	—	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
15 なぎなた	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
16 フェンシング	—	4	—	—	—	ピスト 4面分	—	—	—	10	—	—
17 障がい者スポーツ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計									770	350	40	20

※競技面数及び保管が必要な器具等を競技団体から調査し、その収納に必要な面積を器具メーカーへ確認し整理。

柔剣道場・弓道場 その他諸室の必要規模（廊下，階段，トイレ等は含まない）

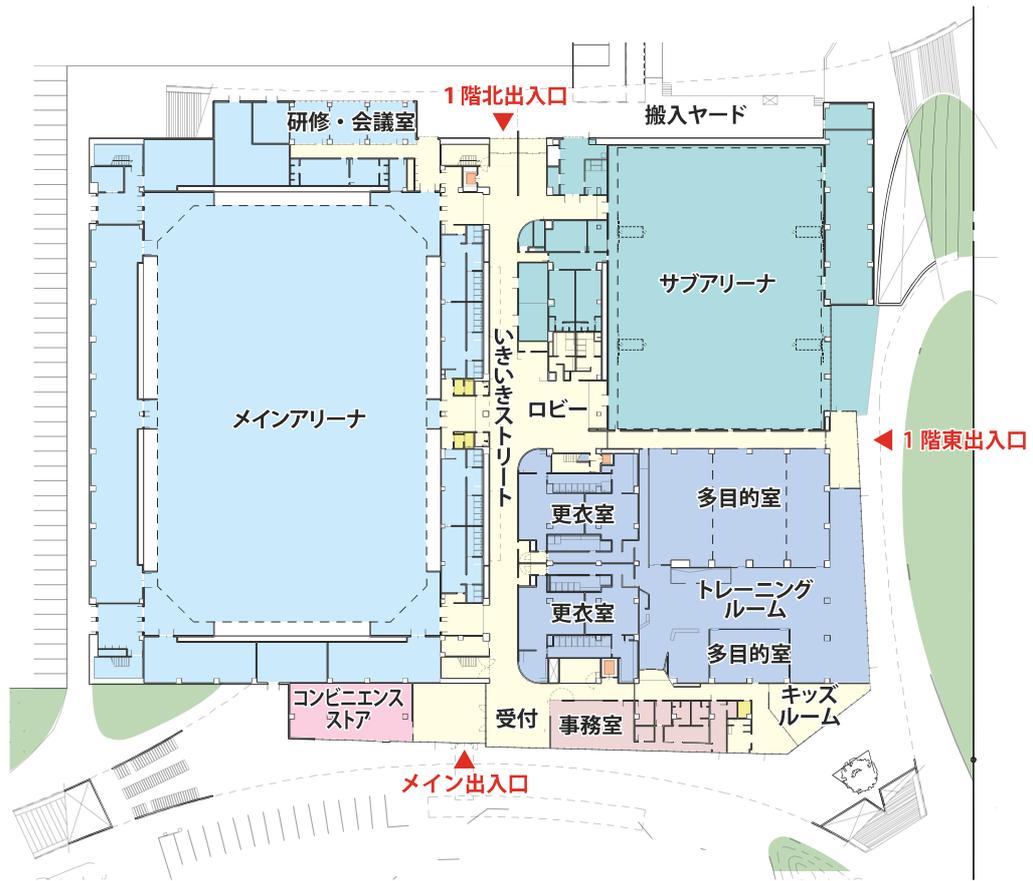
諸室	区分	基準等						類似施設等						必要面積		
								由利本荘市防災公園アリーナ 柔剣道4面		太宰府市総合体育館 柔剣道4面		福岡市総合体育館 柔剣道4面		新たな総合体育館 柔剣道場4面		
								用途	面積	用途	面積	用途	面積	諸室	用途	面積
柔剣道場	選手							更衣室	58	更衣室	64	更衣室	96	武道場	更衣室	58
	運営							その他諸室	117	その他諸室	228	その他諸室	363		その他諸室	117
合計									175		292		459		計	175

諸室	区分	基準等						類似施設等						必要面積				
								ぐんま総合スポーツセンター 近的12人立		酒田市国体記念体育館 近的10人立		福岡市総合体育館 近的10人立		平塚総合体育館 近的9人立		新たな総合体育館 近的12人立		
								用途	面積	用途	面積	用途	面積	用途	面積	諸室	用途	面積
弓道場 (近的)	選手							更衣室	100	更衣室	59	更衣室	38	更衣室	46	弓道場	更衣室	100
	運営							その他諸室	210	その他諸室	131	その他諸室	167	その他諸室	230		その他諸室	210
合計									310		191		205		276		計	310

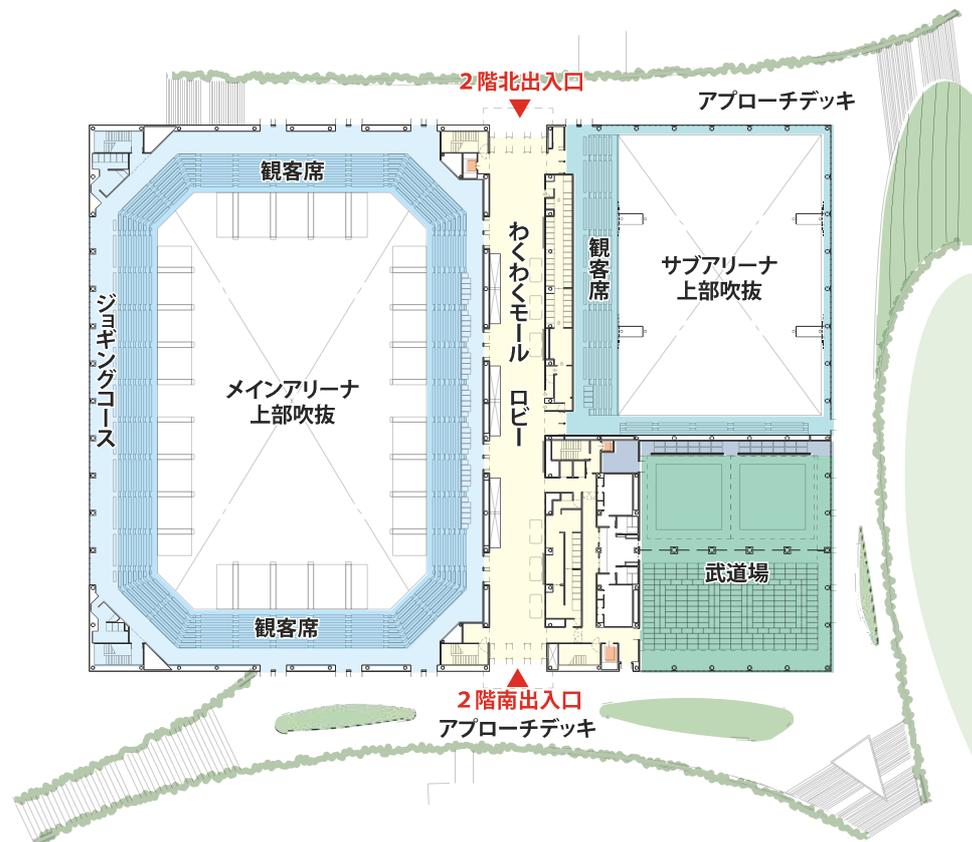
諸室	区分	基準等						類似施設等						必要面積				
								ぐんま総合スポーツセンター 遠的6人立		酒田市国体記念体育館 遠的6人立		久留米スポーツセンター 遠的12人立		山形市総合スポーツセンター 遠的12人立		新たな総合体育館 遠的6人立		
								用途	面積	用途	面積	用途	面積	用途	面積	諸室	用途	面積
弓道場 (遠的)	選手							更衣室	100	更衣室	59	更衣室	19	更衣室	74	弓道場	更衣室	59
	運営							その他諸室	252	その他諸室	126	その他諸室	81	その他諸室	59		その他諸室	126
合計									352		185		100		132		計	185

※ 競技団体から，諸室の規模に係る基準がないことを確認

福岡市総合体育館 施設配置図



1 階平面図



2 階平面図

福岡市総合体育館 施設配置図



2階武道場部分拡大図



4階弓道場部分拡大図

新たな総合体育館のコンセプトについて（たたき台）

※これまでの検討委員会における御議論等を踏まえ、たたき台を作成

鹿児島県総合政策部スポーツ施設対策室

現状・課題	需要予測調査結果
<p>(現体育館の現状・課題)</p> <ul style="list-style-type: none">●現体育館は、築後60年以上経過し、老朽化が進んでいる。●全国・国際大会レベルの競技大会の開催には狭隘である。 <p>⇒ 県大会等のスポーツ大会が各市町村立体育館で分散開催されており、効率的な大会運営ができていない。 全国・国際大会の誘致に支障が生じている。</p>	<ul style="list-style-type: none">●施設の利用割合は、メインアリーナでスポーツ利用が概ね76%~87%、 〔・スポーツ大会：概ね43%~51% ・県民利用：概ね30%~35% ・プロスポーツ利用：概ね2%~3%〕 多目的利用が概ね13%~24% <p>⇒ スポーツ利用が約8割となっており、その中でも県大会等のスポーツ大会が半分以上を占めている。</p>

大まかな施設の規模・構成

施設の規模・構成の考え方

- 「する」スポーツに適した施設構成として、**メイン：バスケ4面、サブ：バスケ2面、柔剣道場：各2面、弓道場**を想定
- 「みる」スポーツにも対応するため、**関係者控室やメディア対応等に必要の諸室を充実**
- 観客席（最大収容人数）については**、将来的な国際大会等の誘致を見据えたとともに、コンサート需要を踏まえ、**8千席程度**を想定

各施設構成ごとの概要

競技フロアや観客席、諸室等については、需要予測調査のほか、大会の運営状況や各種基準等を踏まえ、必要最小限の規模を記載。
これらは、整備予定地の決定後、施設のレイアウトを検討する中で具体的に検討

検討に当たっての視点

- 選手、観戦者などあらゆる利用者にとって快適な環境づくり
- 障害者や高齢者を含む全ての利用者が公平に使用できるよう配慮
- 最先端の情報ネットワーク環境や映像・音響装置など、施設の付加価値を高める設備の検討
- 他県施設との差別化や「みる」スポーツの視点から、競技スペース以外の部分（ホワイエ、飲食スペース等）や諸室・空間の環境整備等にも配慮
- 施設の財政的な持続可能性にも寄与する機能の担保

施設の機能

基本的な考え方

現体育館の現状・課題や、需要予測調査結果を踏まえ、**新総合体育館は、「する」スポーツをベースとした、アスリートファーストの施設とする。**

スポーツ振興の拠点機能

- 屋内スポーツ競技の中核的な施設（聖地）として、**県大会をはじめとする各種大会の円滑な運営や、全国・国際大会の誘致が可能な施設とする。**
※スポーツ大会以外の県民利用は、主にサブアリーナを活用
- 県民が一流のスポーツイベントに触れる機会を創出するほか、他県施設との差別化、市町村との役割分担の明確化、サステナビリティの視点から「みる」スポーツにも対応できる施設とする。
- スポーツ科学の研究・提供機能（鹿屋体育大学等との連携を検討）、スポーツ情報発信機能、スポーツ関係者の交流・ネットワーク拠点機能など、**本県のスポーツ振興を「ささえる」人材を育成する施設とする。**

このことにより、
①競技力の向上や競技人口の増加を図る。
②県民、とりわけ将来を担う鹿児島の子供達に良質なスポーツ環境の提供を図る。

多目的利用による交流拠点機能

- 上記のとおり、スポーツ振興の拠点機能を軸とするが、これに加え、**コンサート・イベント等の開催を通じ、スポーツをする人もしない人も、また、様々な年代の人々が交流できる施設とする。**

このことにより、**賑わいの創出や経済波及効果など地域活性化とともに、施設の収益性にも寄与する。**

メインアリーナ

- 競技フロア：バスケットボールコート4面、フロアサイズ：(46.0m×81.0m)+a
- 観客席（最大収容人数）：8千席程度

サブアリーナ

- 競技フロア：バスケットボールコート2面、フロアサイズ：(34.0m×46.0m)+a
- 観客席：整備予定地の決定後、具体的に検討

柔剣道場

- 競技フロア：柔道場2面・剣道場2面（計4面）、フロアサイズ：(29.0m×29.0m)+a
- 観客席：整備予定地の決定後、具体的に検討

弓道場

- 近的12人立、遠的6人立 ○観客席：整備予定地の決定後、具体的に検討

諸室

- 器具庫、更衣室、会議室、VIP室 ○必要面積：5,355㎡±a

その他

- スポーツ科学の研究・提供機能（例：鹿屋体育大学のサテライト）
- スポーツ情報発信機能（例：スポーツ博物館、ライブラリー機能）
- スポーツ関係者の交流・ネットワーク拠点機能（大会期間外も含めた総合支援拠点）
- 健康増進（ヘルス）サービス機能（ウェルネス情報発信）
- 競技者以外でも気軽に来場できる仕組みづくり（ファミリーシートの設置など） など

新たな総合体育館の立地環境について

1 基本的な考え方

新たな総合体育館について、立地に必要な条件を整理するとともに、それらの条件に沿って現状を踏まえつつ分析を行った。

立地に必要な条件に関し、スポーツ利用については全国・県内の競技団体、多目的利用についてはイベントプロモーターに対し、それぞれヒアリングを行い、整理を行った。

その結果、スポーツ利用、多目的利用のいずれにおいても、利用者や主催者の利便性の観点などから、交通利便性、宿泊施設、飲食・物販など商業施設の集積が立地条件として必要との結論を得た。

2 現 状

1で示された立地条件のうち、交通利便性については、利用者がどのような交通手段を利用するかによって、評価の対象も異なることから、それぞれの利用形態ごとの交通手段の現状について把握した。

(1) スポーツ利用

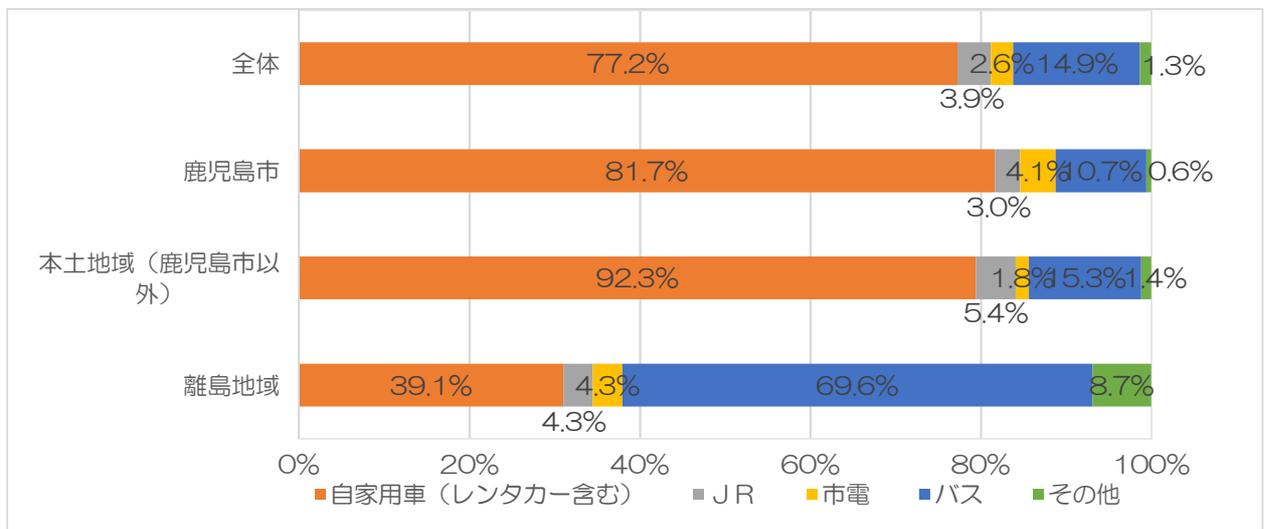
① 県大会

※ 県大会の主な参加者である中高生のスポーツ大会をもとに整理

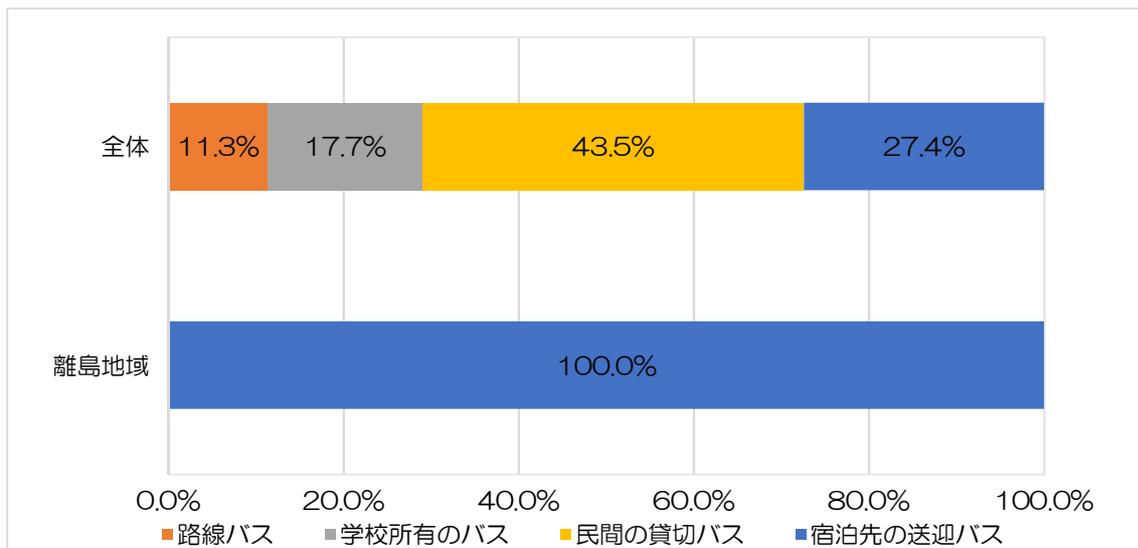
令和2年1月に実施した部活動指導者向けのアンケート調査結果によると、大会会場までの交通手段については、県本土地域のほとんどのケースが自家用車の利用であり、離島地域は港を経由し、多くが宿泊先の送迎バスを利用している。

《 アンケート調査結果（抜粋） 》

I 大会会場までの交通手段



II Iで「バス」と回答した方の内訳



② 全国大会

全国大会については、その大会によって参集範囲が異なると考えられるが、ここでは、2020年に本県で開催が予定されていた国民体育大会における県外参加者の来会意向調査をもとに整理を行った。

調査結果によると、鹿児島を来訪するための最終交通機関について、航空機利用が約50%、新幹線（又は鉄道、バス）が約36%となっている。

各都道府県体育（スポーツ）協会等を対象に実施した来会意向調査結果（令和元年度）

- 最終交通機関別集計
 - ・ 航空機：15,412人（50.2%）
 - ・ 新幹線（又は鉄道、バス）：11,097人（36.2%）
 - ・ 船舶：1,303人（4.2%）
 - ・ 持込車両：2,880人（9.4%）
 - ・ 計：30,692人

(2) 多目的利用

① 県外

※ 需要予測調査において、多目的利用のうち利用日数及び利用者数のいずれも大半を占めるコンサートの状況をもとに整理

プロモーターに確認した結果、県外からの参加者は、九州地域が大半であることを確認した。

また、交通機関は高速バスや新幹線の利用が多いのではないかとの意見であった。

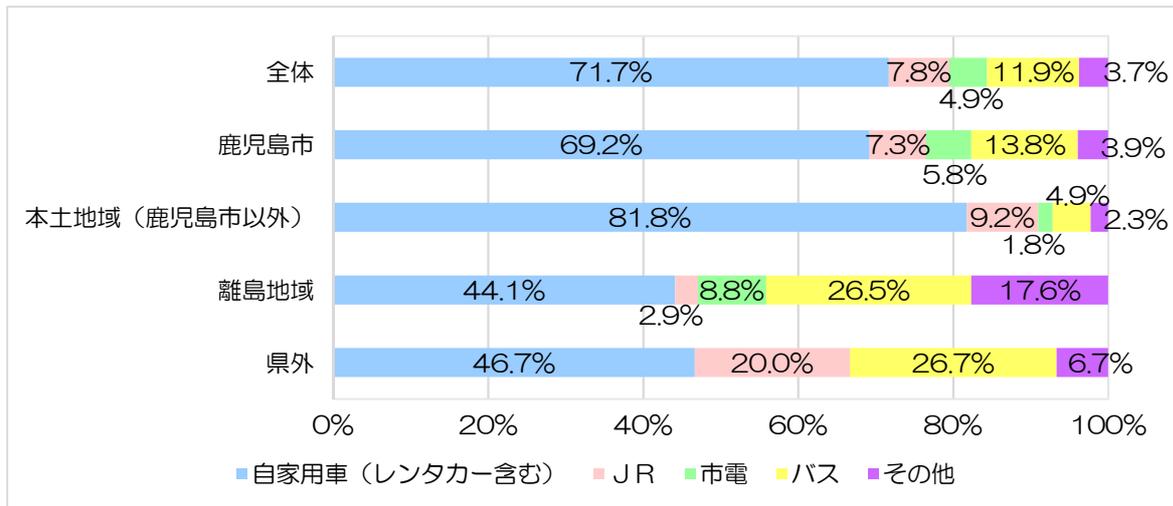
※コンサート等来場者の居住地について、プロモーターへ聞き取り

- 県内約7割，県外約3割
- 県外の内訳
 - 九州：約2割，関西・関東：数パーセント

② 県内

令和2年1月に実施した県民アンケート調査結果によると、スポーツイベント、スポーツ観戦、コンサート、イベント等の会場への交通手段については、約70%が自家用車、約25%が公共交通機関を使用している。

《 アンケート調査結果（抜粋） 》



3 分析

(1) 需要予測調査及び現状を踏まえた具体的な条件の検討

1で整理した立地条件について、昨年度実施した需要予測調査（利用割合等）及び2で整理した交通手段の現状を踏まえ、更に具体的な条件を設定した。

(具体的な条件設定)

	立地条件				根拠
	利用形態	利用割合	項目	具体的な条件	
スポーツ利用	県大会	約40%	交通利便性	県内：自動車，船によるアクセス	部活動指導者アンケート 県内競技団体調査
			宿泊施設	周辺に宿泊施設が多いこと	
			商業施設	周辺に商業施設が多いこと	
	全国大会	約4%	交通利便性	県外：航空機，新幹線によるアクセス	国体参加者調査 全国競技団体調査
			宿泊施設	周辺に宿泊施設が多いこと	
			商業施設	周辺に商業施設が多いこと	
県民利用	約30%	—	—	—	
多目的利用	コンサート・イベント	約20%	交通利便性	県外：高速バス，新幹線によるアクセス	プロモーター調査
				県内：自動車，JR，バスによるアクセス	県民アンケート
			宿泊施設	周辺に宿泊施設が多いこと	プロモーター調査
			商業施設	周辺に商業施設が多いこと	

新たな総合体育館は、現体育館の現状・課題等を踏まえ、「する」スポーツをベースとしたアスリートファーストの施設として検討を進めており、利用割合についても需要予測調査結果により、県大会の利用が最も多いと想定されることから、これら競技者にとっての立地環境を最も重視することとする。

《 利用形態ごとに重視する条件 》

県大会

県大会の主催者である県内競技団体にヒアリングした結果、本県の特色である離島を含む県内各地からの交通利便性を最も重視し、次に大会中宿泊が必要となる離島生徒への配慮の観点から宿泊施設、大会中の飲食・物販への対応の観点から商業施設の順であることを確認した。

全国大会

全国大会の主催者である全国競技団体にヒアリングした結果、全国各地からの集まりやすさの観点から交通利便性を最も重視し、次に大会期間中多数の来県が予想される大会参加者・主催者の利便性を確保する観点から宿泊施設、大会中の飲食・物販への対応の観点から商業施設の順であることを確認した。

コンサート・イベント

コンサート・イベントの主催者であるプロモーターにヒアリングした結果、県内外からの集まりやすさの観点から交通利便性を最も重視し、次に観覧者・イベントスタッフ（長期滞在するスタッフも存在）への利便性の観点から宿泊施設、イベント時・イベント後の飲食・物販への対応の観点から商業施設の順であることを確認した。

(2) 利用形態毎の立地条件について

① 県大会

ア) 交通利便性

2で示したように、本土地域の利用者のほとんどが自家用車利用であることから、県内のどの地域が自動車利用において最も優位であるか分析を行った。

具体的には、県本土地域 25 市町の市役所・町役場を起点に、県大会の主な参加者である中高生の競技人口を加味して、それぞれの時間距離を比較した。

その結果、鹿児島市が最も優位との結論を得た。

【 自動車によるアクセス比較 】

①調査方法

県本土地域の 25 市町を対象に，他の市町との自動車による移動時間の平均値を比較

比較に当たっては，市町毎に，県大会の主な参加者である中高生の競技人口を加味し，加重平均を算出

- ・ 起点：県本土地域 25 市役所・町役場
- ・ 移動時間の算出：Google 社が公表している Google Directions API を使用し，過去のビッグデータから，移動時間を推計※
- ・ 競技人口：屋内 17 競技の部活道加入者数（中学校・高校）

※全て同じ時刻を設定し比較。大会規模の大きい県中学校バレーボール大会の最終日の終了時刻（R3.5.24 16:00）を設定

※フェリー利用が有利な場合は，フェリー利用を優先

②調査結果

市町村名	移動時間 (平均値)	市町村名	移動時間 (平均値)
鹿児島市	0:34	志布志市	1:30
鹿屋市	1:33	南九州市	1:06
枕崎市	1:27	伊佐市	1:18
阿久根市	1:28	始良市	0:42
出水市	1:39	さつま町	1:10
指宿市	1:27	長島町	2:01
垂水市	1:17	湧水町	1:00
薩摩川内市	1:03	大崎町	1:31
日置市	0:47	東串良町	1:34
曾於市	1:13	錦江町	1:51
霧島市	0:54	南大隅町	1:57
いちき串木野市	0:58	肝付町	1:36
南さつま市	1:09		

また、本県の特徴として、離島の中高生の大会参加が挙げられる。

離島の中高生（熊毛・奄美地域）は大会終了後、船舶を利用し帰島するが、屋内スポーツ競技団体等への聞き取りの結果、ほとんどの競技において、出港に間に合わないことを理由とした表彰式の途中退席や延泊などの実態がある。

このため、平等な競技環境を提供する観点からは、特に港からのアクセスを重視する必要があり、鹿児島港から近い距離に立地することが望ましい。

（参考）大会の運営状況及び船舶のダイヤ

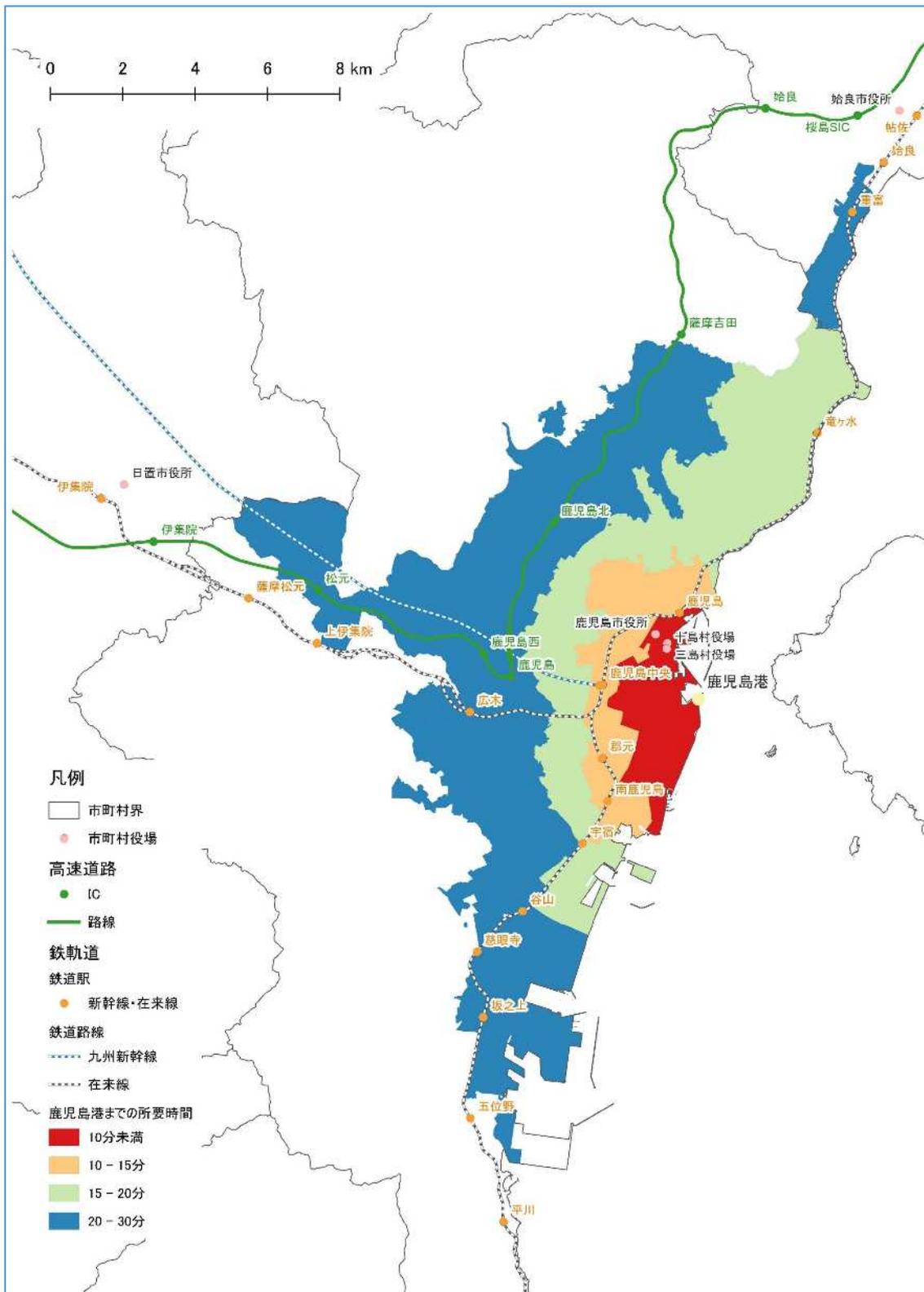
○ 大会の終了予定時刻

- ・ 一・二回戦：ほとんどの大会で午後４時から５時に終了
- ・ 最終日：ほとんどの大会で午後４時頃に終了

○ 船舶のダイヤ

- ・ 大島航路：鹿児島新港 １８：００発
- ・ 喜界航路：鹿児島港本港区（北ふ頭） １７：３０発
- ・ 種子屋久航路：鹿児島港本港区（南ふ頭）※トッピー
１７：００発（種子島行き）
１６：３０発（屋久島行き）

《 資料：鹿児島港までの所要時間 》 ※Google Directions API により算出

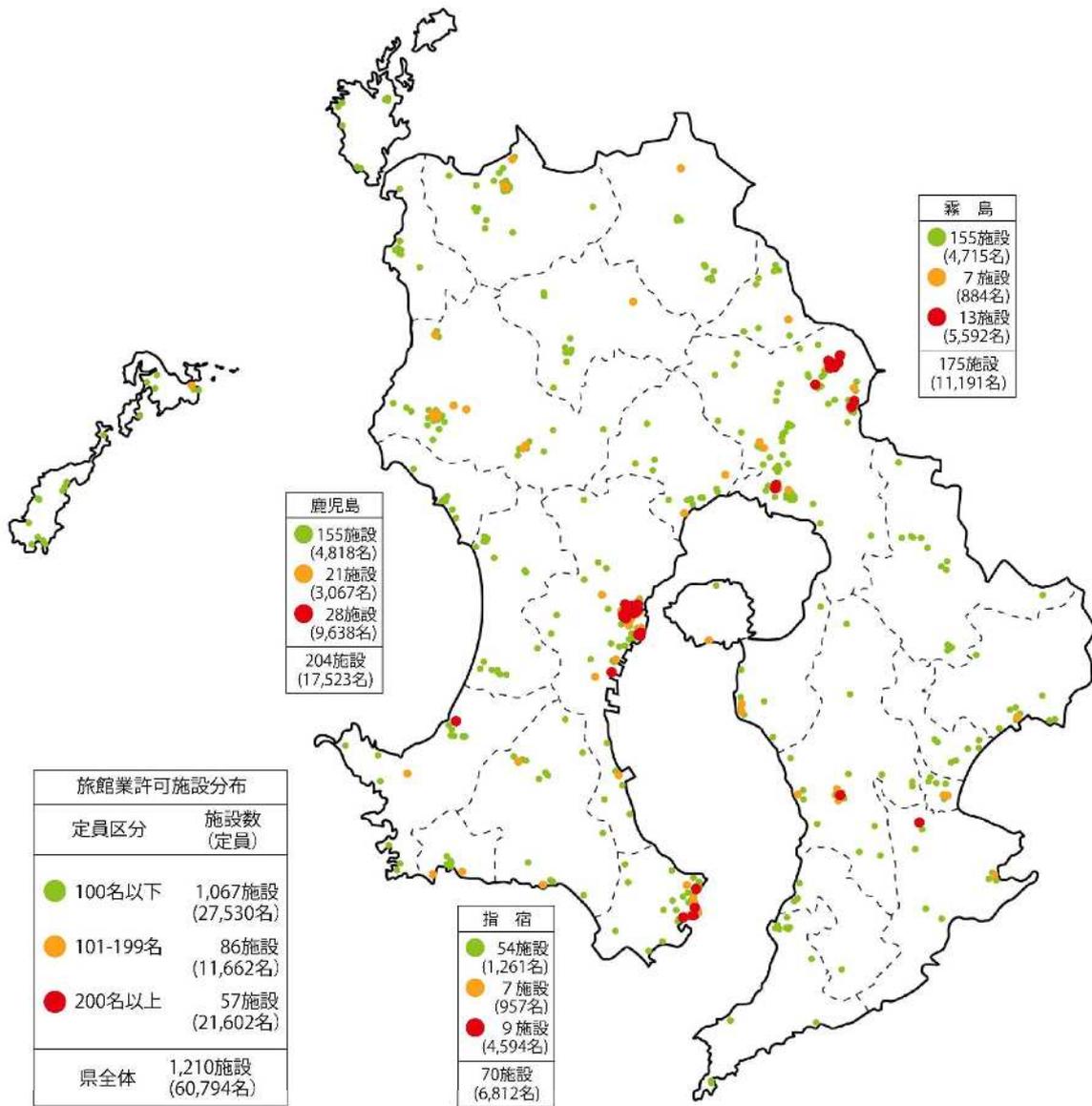


イ) 宿泊・商業施設の状況

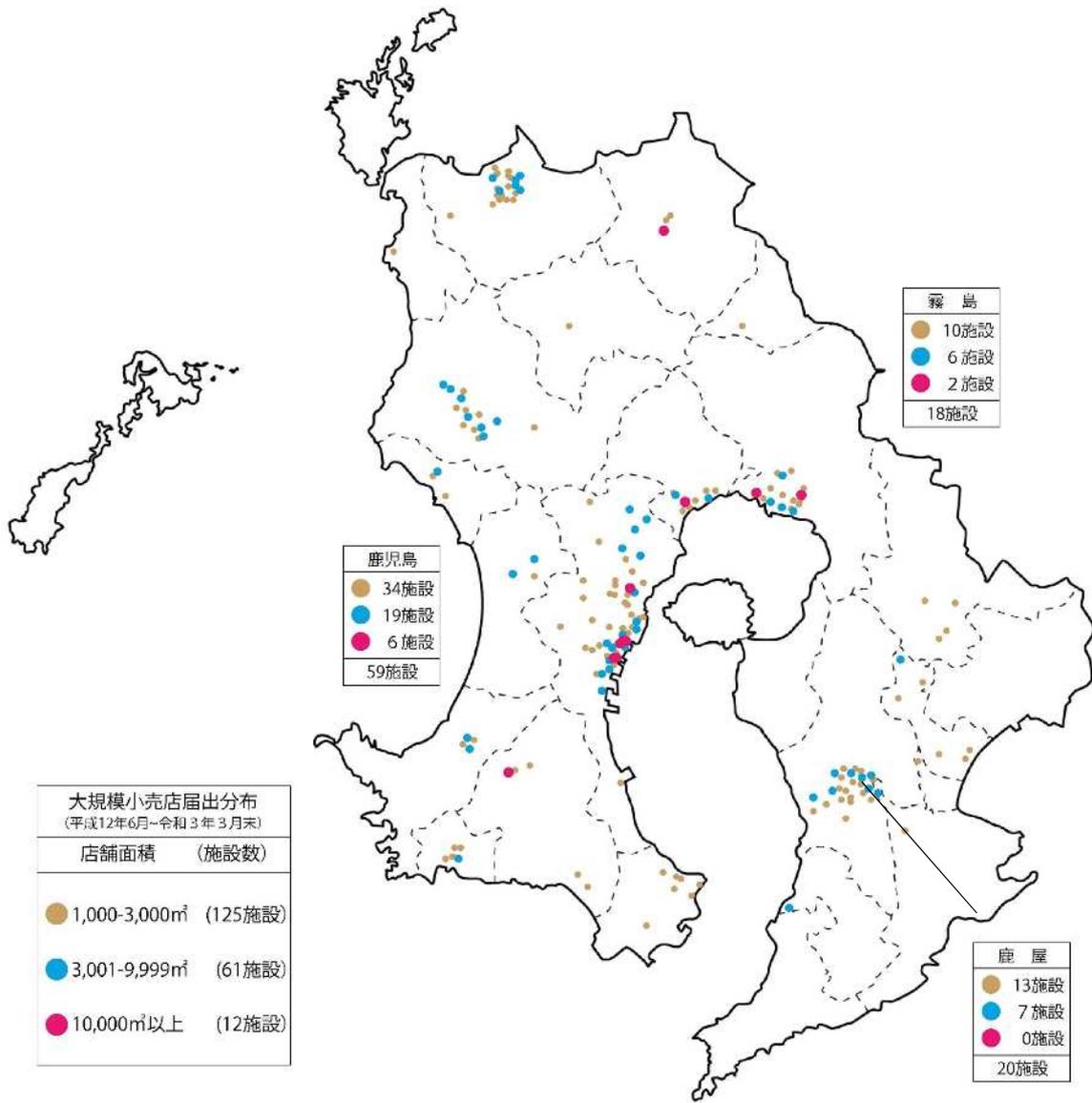
宿泊・商業施設については、いずれも鹿児島市に最も集積している。

《 資料：宿泊・商業施設の立地状況 》

宿泊施設の立地状況



商業施設の立地状況



② 全国大会

ア) 交通利便性

全国大会については、その多くで航空機と新幹線による来県が想定されるが、立地条件としては、交通結節点である鹿児島空港と鹿児島中央駅に近い距離に立地することが望ましい。

イ) 宿泊・商業施設の状況

県大会と同様

③ コンサート・イベント

ア) 交通利便性

コンサート・イベントについては、県外の場合、その多くで新幹線と高速バスによる来県が想定されることから、立地条件としては、交通結節点である鹿児島中央駅に近い距離に立地することが望ましい。

また、県内の場合は、その多くで自家用車と電車・バス等の公共交通機関による来場が想定されることから、立地条件としては、自家用車の場合、自動車によるアクセス比較の結果、鹿児島市が最も優位となり、公共交通機関の場合、交通結節点である鹿児島中央駅に近い距離に立地することが望ましい。

イ) 宿泊・商業施設の状況

県大会と同様

【 自動車によるアクセス比較 】

①調査方法

県本土地域の 25 市町を対象に，他の市町との自動車による移動時間の平均値を比較

比較に当たっては，市町毎に人口を加味し，加重平均を算出

- ・ 起点：県本土地域 25 市役所・町役場
- ・ 移動時間の算出：Google 社が公表している Google Directions API を使用し，過去のビッグデータから，移動時間を推計※

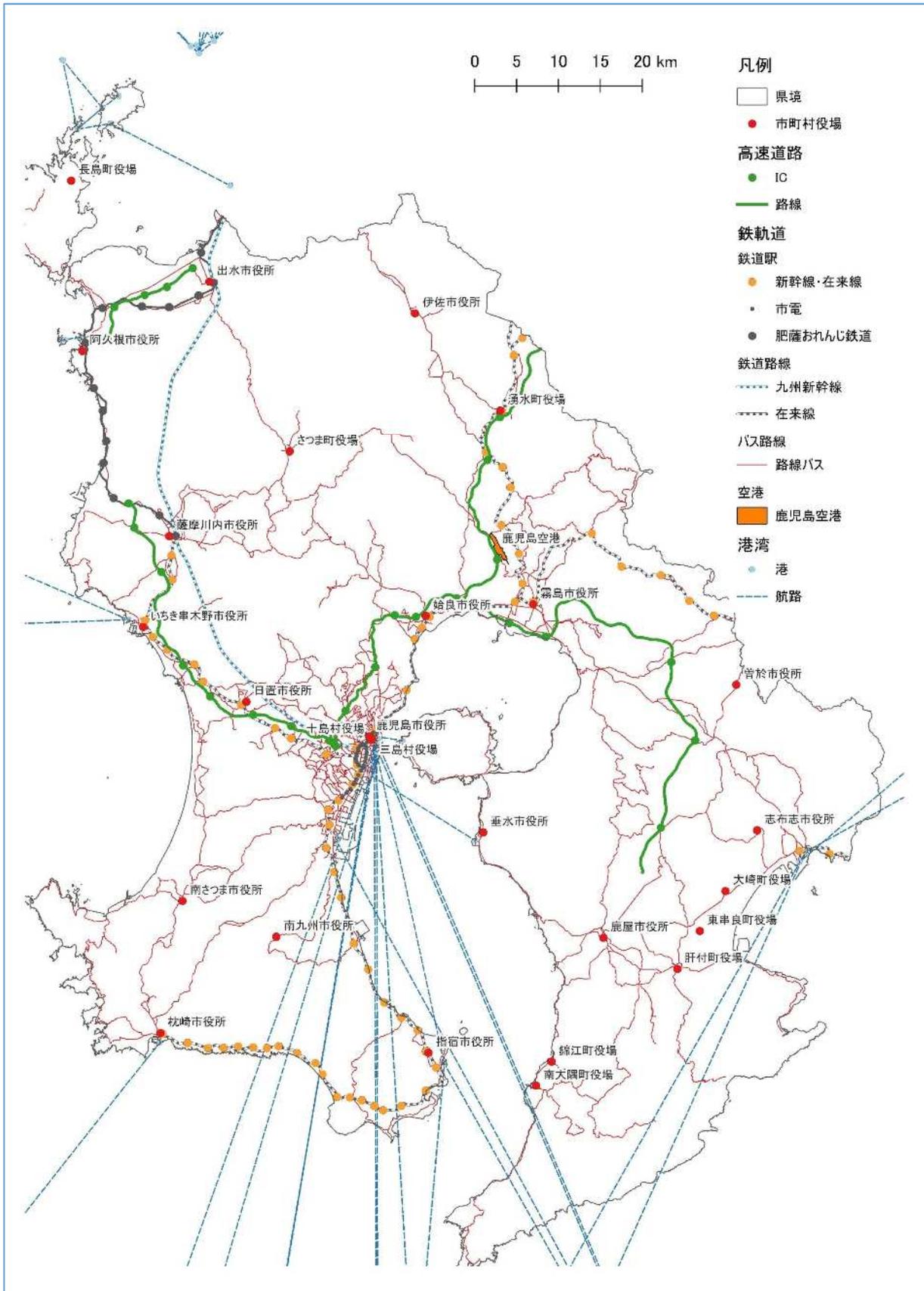
※全て同じ時刻を設定し比較。コンサートは土日の 16 時から 18 時の開場が多いことから日曜日の 16 時を設定

※フェリー利用が有利な場合は，フェリー利用を優先

②調査結果

市町村名	移動時間 (平均値)	市町村名	移動時間 (平均値)
鹿児島市	0:38	志布志市	1:30
鹿屋市	1:33	南九州市	1:08
枕崎市	1:29	伊佐市	1:18
阿久根市	1:28	姶良市	0:45
出水市	1:39	さつま町	1:11
指宿市	1:28	長島町	2:01
垂水市	1:18	湧水町	1:01
薩摩川内市	1:05	大崎町	1:31
日置市	0:50	東串良町	1:34
曾於市	1:14	錦江町	1:52
霧島市	0:55	南大隅町	1:57
いちき串木野市	1:00	肝付町	1:36
南さつま市	1:11		

《 資料：県内の公共交通網等 》 ※出典：国土交通省 GIS 国土数値情報



《 分析結果のまとめ 》

- スポーツ利用：県大会（利用割合：約40%）の場合
 - ・ 交通利便性（本土地域：自家用車利用）
 - ⇒ 鹿児島市が最も優位
 - ・ 交通利便性（熊毛・奄美地域：船舶（鹿児島港利用））
 - ⇒ 鹿児島港から近い距離が望ましい
 - ・ 宿泊・商業施設
 - ⇒ 鹿児島市に最も集積

- スポーツ利用：全国大会（利用割合：約4%）の場合
 - ・ 交通利便性（航空機・新幹線利用）
 - ⇒ 鹿児島空港・鹿児島中央駅から近い距離が望ましい
 - ・ 宿泊・商業施設
 - ⇒ 鹿児島市に最も集積

- 多目的利用：コンサート・イベント等（利用割合：約20%）の場合
 - ・ 交通利便性（県外：新幹線・高速バス）
 - ⇒ 鹿児島中央駅から近い距離にあることが望ましい
 - ・ 交通利便性（県内：自家用車利用）
 - ⇒ 鹿児島市が最も優位
 - ・ 交通利便性（県内：電車・バス等）
 - ⇒ 鹿児島中央駅から近い距離にあることが望ましい
 - ・ 宿泊・商業施設
 - ⇒ 鹿児島市に最も集積

※この資料は、基本構想策定支援事業の委託先である「(株)梓設計 九州支社」において、新総合体育館の立地条件について、競技団体・イベントプロモーターへのヒアリングを行った上で整理するとともに、立地条件とされた交通利便性や宿泊施設の集積度などの県内の状況について各種データの分析を行い、その結果を取りまとめたもの。